**メッセージのレジュメ**

**2021年4月25日（日）**

**聖書箇所：ゼカリヤ書４章１節～１４節**

**タイトル：「神殿再建への道②―わたしの霊によって―」**

＊①～⑥は、エルサレム帰還、神殿再建に用いられた人々

　紀元前５３９年　**ペルシャの①クロス大王**がバビロンを滅ぼす。

（クロス大王在位紀元前５５９～５２９年）

　紀元前５３８年　第１回帰還　５万人のユダヤ人が帰還

**②ゼルバベル**と**③ヨシュア**の指導のもと総数42,360人（エズラ２章）が帰還

この時からユダヤ人と呼ばれる　多くの人がユダ族出身であったため。

ゼルバベルは、政治的リーダー、ヨシュアは、大祭司であり宗教的リーダー

ゼルバベルは、第二回補修の時にバビロンに連れていかれたエホヤキンの孫

紀元前５３６年　**神殿再建工事着工**　エズラ３章８節

工事の指揮者は、２０歳以上のレビ人。

しかしサマリヤ人の妨害により工事中断　エズラ４章

　紀元前５２９年　**クロス大王の死**

　　　　　　　　　代わってキュロス大王の息子、**カンビュセス２世**が王となる。

* **工事の中断期間１４年**。ダリヨス王の治世の２年まで

　紀元前５２２年　**カンビュセス２世の死**

**ダリヨス王就任**

紀元前５２０年　**神殿工事再開**　エズラ４章２４節、ハガイ１章１５節

紀元前５２０年　その時に主が立てられたのが預言者**④ハガイ**（６月）、**⑤ゼカリヤ**（８月）

ハガイとゼカリヤの言葉に励まされて、ゼルバベルとヨシュアは反対を恐れずに

工事を再開した。

ハガイの活動期間は、４ヵ月間

ゼカリヤの活動期間は、約５０年

・二度目の妨害

総督タテナイをはじめ国の指導者がやってきて誰の命令によって神殿を再建しているのかと訴えてきた。そこで**⑥ダリヨス王**に訴状が送られた。エズラ５章７節～１７節

ダリヨス王の命によりバビロンにある王の宝物蔵を探すと、クロス王の文書が見つかった。ダリヨス王は、工事の援助と神殿器具の返還を命じる。またペルシャの王のために祈れと命じた。エズラ６章

紀元前５１６年　**第二神殿完成　完成奉献式**

　　　　　　　　　神殿再建が着工されてから２０年の経て完成。

**◎ゼカリヤ書**

・新約聖書の中には、ゼカリヤ書からの引用やゼカリヤ書への言及が７０回以上ある。

そのうちの三分の一が福音書にあり、残りの三分の二がヨハネの黙示録。またゼカリヤ書は、イザヤ書の次にメシヤ預言が記されている書物でもある。

例：しもべとしてのメシヤ。ゼカリヤ書３章

若枝としてのメシヤ。ゼカリヤ書６章

イエス様が子ろばに乗ってエルサレムに入城されたこと。ゼカリヤ書９章

　　銀貨３０枚で売られること。ゼカリヤ書１１章

　　主の剣で打たれる・十字架。ゼカリヤ書１３章等々

・ゼカリヤ書４章

ゼカリヤは一晩で８つの主からの幻が与えられる。その５つ目の幻が記されているのが、ゼカリヤ書第４章。

・メノラー：イスラエルのシンボルであり、神の栄光を表す象徴。（出エジプト記２５章３１節～３６節）

　　　メノラー　　イスラエルの国章　　　　ゼカリヤが見た幻

・この幻を通して主が語られたことの意味は、神殿再建は、**「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって」（ゼカリヤ書４章６節）**ということ。

ソロモン神殿も主の御力によるものであったが、この時の帰還民と比べれば、権力も、能力、富も比較にならない。また帰還民たちは、クロス王、ダリヨス王の発布にすがる思いであった。しかし主は、権力や能力では不可能であると語られた。

**１．すべての働きは、主の霊によるということ**

　神殿再建という特別な主の働きに関わらず、私たちの日々の生活における学業、家事、子育て、夫婦生活、仕事、教会における奉仕、礼拝、伝道、献金、日々のディボーション。それらすべては、権力や能力ではないと主は語られる。権力や能力では不可能であると。

　この世界は、神から自立して、ただ自分の能力のみに頼ることを推奨する。また不安からもそのように生きることによって安心を得ようとする。自分の力はしれているので絶えず不安に陥り、一人で責任を背負い、ストレスとなり、ますます空回りしていく。

　霊によって生きる人は、自分の無力さを素直に認め、主に祈り、みことばに聞き、学び、弱さを分かち合い、祈りつつ進んでいく。そして主から力と平安の内に生きることができる。

**２．主の励ましをいただいて生きる**

主は、ある意味挫折して、リーダーとしてふさわしくないと思えるゼルバベルと大祭司ヨシュアをイスラエルを祝福する者として選んでおられることを告げられた。ゼカリヤ書４章１２節～１４節

主は、私たちが、困難の中で挫折したり、過去にどのような失敗をしていても、主は、ご自身が選んだ者を見捨てることなく、用いて下さる方である。

**「わがたましいよ。なぜ、おまえはうなだれているのか。なぜ、私の前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の顔の救い、私の神を。」（詩篇４３篇５節）**